

理容師スパルタ養成塾

長谷川 修

髭をあたってもらいながらウトウトしていると、昭和歌謡がかすかに聞こえてき、心地よい。そうか、前回来た時に店長が交代し、新しい店長は客層に合わせ年代別にCDを揃えたと言っていたな。先般茨城に戻った前店長は専らスタンダードジャズだったが、今頃は実家でジャズを流しながら客に接しているのだろうか。

ここは二十年来通っている蒲田駅前の小さな床屋だ。髪をカットするのはたいていが二十代後半の店長であり、二、三年で交代する。人が変わっても腕は確かで、不快感を覚えたことは一度もない。常連客の髪を初めてカットする場合には、顧客ノートを見ながらとなるが、いつもと同じように仕上げてくれるので安心して任せる。

この店は、蒲田に本店を置くNへアーサロンのチェーン店で、出店はこの店のほかに大田区内や都内、近県に十店舗ほど持つ。創業者社長のNさんは、自身が理容の技術全国大会で日本チャンピオンになっただけでなく、指導者としても多くの弟子を育てた（その中には世界一や日本一が何人もいる）。指導の厳しさは業界でも有名なようで、床屋の店主で跡継ぎを預ける人も多い。

長く通っていると自然と色々な話が耳にはいる。理容技術の練習は、毎日仕事が終わった夜九時から深夜一時過ぎまで行われ、新弟子は兄弟子から特訓を受け、兄弟子は競技大会入賞を目指して互いに切磋琢磨する。大会前にはこれに加えて朝練や合宿もある。全員が一つの寮で生活し食事当番は交代制だ。指導は理容の技術だけでなく、店の清掃や客との適度な会話、店舗経営にも及ぶ。店長をつとめ三十歳位で卒業すると、実家に帰り家業を継ぐ人、新規に開業する人、店に残り更に技術を磨く人、とそれぞれの道に進む。

寸暇を惜しんで技能の習熟に専心している若者たちをみると、つい応援したくなる。料金はシニア割引もなく通常の店より若干高めだが、頭も心もすっきりする月一回のささやかな贅沢は、コロナが来よつとやめられない。